シリーズ①

# ウェルビーイングで選ばれる都市になるために

叡啓大学ソーシャルシステムデザイン学部学部長・教授　**保井　俊之**

ウェルビーイングとは身体的、精神的及び社会的に心が良い状態を指す。その言葉が都市政策の政策目標の中心に置かれる事例がここ数年急増し、都市政策関係者の注目を浴びている。国が打ち出したスーパーシティ・デジタル田園都市構想の主柱のひとつがウェルビーイングであり、さらに昨年公表の第４期教育振興基本計画が「日本社会に根ざしたウェルビーイング」を政策目標に掲げたことから、ウェルビーイングが都市創造のキーワードになった感がある。しかしその背景には、ウェルビーイング中心のまちづくりへの、本格的な政策シフトを長年にわたり地域住民が自治体に求めていることがある。本稿は、ウェルビーイングを追究する都市政策の背景とその方向性について、広い視野から平易に論じる。

## 1　ウェルビーイングの追求が大きな政策課題に

昨年秋の臨時国会冒頭、岸田総理大臣は所信表明演説の締めくくりで、「ウェルビーイングを拡げれば」「日本国民が『明日は今日より良くなる』と信じることができるようになる」[1]と述べた。ウェルビーイングの実現は、もはや国を挙げての大方針となった感がある。

ウェルビーイングとは自分の人生に対する評価[2]であり、良好な心の状態[3]を指す。しかしこの言葉はここ数年の流行語ではない。例えば、世界保健機関（WHO）は70年前から、健康を身体的、精神的及び社会的にすべてが満たされた状態と定義している[4]。この、満たされた状態の英語の原語が、well（満たされた）be-ing（状態）と表現されるウェルビーイングである。

すなわちウェルビーイングとは、人生におけるハツラツ、ウキウキ、ワクワクの状態、つまりハツラツ＝元気（身体的）、ウキウキ＝ご機嫌（精神的）、ワクワク＝いきいき（社会的）な心の良いあり方だ。ウェルビーイングは心の幸せと超訳されることもあるが、短期的なうれしい感情を主に指すハピネスを超えて、人生経験の長期的な評価まで含んだ広い概念であることに留意したい。

ウェルビーイングはこれまで、個人の心的状態を中心に研究されてきた。しかし2015年に国連総会で合意された国連の持続可能な開発目標（SDGs）の目標３として掲げられていることに加え、経済協力開発機構（OECD）が2013年に教育の価値を学

1　第二百十二回臨時国会における岸田総理所信表明演説（2023年10月23日）https://www.kantei.go.jp/jp/101_kishida/statement/2023/1023shoshinhyomei.html（最終閲覧 2024年1月11日）

2　Diener, E.（2000）. “Subjective well-being: The science of happiness and a proposal for a national index”, *American Psychologist,* Vol. 55, No.1, pp,34-43

3　OECD（2013）. “OECD Guidelines on Measuring Subjective Well-being”, *OECD Publishing,* https://doi.org/10.1787/9789264191655-en, 2013, p,10

4　WHO Website, https://www.who.int/about/accountability/governance/constitution（最終閲覧 2024年1月11日）

生たちのウェルビーイング獲得の支援に置き[5]、WHO が 2021 年に持続可能なウェルビーイング社会の創造が急務と宣言した[6]ことから、地域や社会のウェルビーイング実現を社会全体の目標に掲げる動きが、このところ加速している。

国際連合のポリシーペーパー[7]のレベルではあるが、ウェルビーイングを国内総生産を超える新たな成長目標として位置づけ、ポスト SDGs の政策目標に擬する動きもある。

## 2　ポジティブ心理学の台頭が契機

ウェルビーイングが政策用語として注目されるようになった背景のひとつに、普通に暮らすひとがより幸せになることを実践する方法論である、ポジティブ心理学という学問領域の台頭がある。

ポジティブ心理学の分野では、ウェルビーイングとレジリエンスが、職場や家庭での成功や人生の満足度を決める鍵になるという研究成果が 2000 年代から次々に発表されてきた[8]。また米国では特に、2001 年から始まったアフガニスタン及びイラクへの米軍の派兵が、ウェルビーイングとレジリエンスいう言葉に大きな注目を集める契機になった。

紛争地域で強いストレスにさらされた帰還将兵とその家族のメンタル問題へ対応が喫緊の課題となり、ポジティブ心理学会の創設者のひとりである元・全米心理学会会長のセリグマンペン・ペンシルベニア大学教授が米陸軍と共同で、包括的兵士フィットネス（CSF）と呼ばれる 110 万人規模のウェルビーイング及びレジリエンス確保のプログラムを 2008 年に開始した。この試みは、米国政府がウェルビーイングに基づく政策立案を本格的に実施するさきがけとなった。

ウェルビーイングの定義は前章で述べたが、ポジティブ心理学のもう一つの主要テーマであるレジリエンスとは、心的ショックやトラウマからの立ち直り、ストレスに対する打たれ強さを指す[9]。レジリエンスとはもともとシステム工学の用語であり、システムに対する予期せぬ外乱によるダメージに対してシステムが適応し、システムがもともと持っている機能を復元すること、または新機能を獲得することと定義される[10]。同じように、心のレジリエンスとは、トラウマやストレスの重大な原因となる逆境に直面した際、それらにうまく適応するプロセスである。心のレジリエンスは、必ずしも生まれ持った性格に起因するものではなく、誰もがトレーニングにより後天的に獲得することができる。

## 3　社会としてのウェルビーイング追求へ

社会のウェルビーイング向上を政府や自治体の政策目標に掲げる動きは、近年ますます盛んになっている。

前章で述べた米国の事例に先駆け、2000 年代から政府がウェルビーイング及びレジリエンスについて、特色ある政策展開を行っていたのが、オーストラリアである。オーストラリアでは、学校での学生・児童のいじめ防止が喫緊の政策課題だった時期がある。オーストラリア政府はこの問題に対処するため、国家学校安全枠組み（NSSF）を策定し、学生・児童のウェルビーイング及びレジリエンス向上を推進してきた。

英国、フランス及びイタリア政府は、政府予算案及び関連文書にウェルビーイング指標を組み込んで

---

5　OECD（2013）. *OECD Learning Compass,* OECD Website, https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/learning-compass-2030/（最終閲覧 2024 年 1 月 11 日）

6　World Health Organization（2021）. *The Geneva Charter for Well-being, December 21, 2021,* https://www.who.int/publications/m/item/the-geneva-charter-for-well-being（最終閲覧 2024 年 1 月 11 日）

7　United Nations（2023）. “Our Common Agenda”, *Policy Brief 4,* Valuing What Counts: Framework to Progress Beyond Gross Domestic Product”, May 2023 https://indonesia.un.org/sites/default/files/2023-07/our-common-agenda-policy-brief-beyond-gross-domestic-product-en.pdf（最終閲覧 2024 年 1 月 11 日）

8　例えば、Seligman, M.E.P. and Csikszentmihalyi, M.（eds.）（2000）. Positive Psychology, *American Psychologist,* 55（1）.

9　American Psychological Association（2015）. “What is resilience?”, *The Road to Resilience,* APA Website, http://www/apa.org/helpcenter/road-resilience.aspx.,（最終閲覧 2024 年 1 月 11 日）

10　Nelson, D.R., Adger, W.N., Brown, K.（2007）. “Adaptation to Environmental Change: Contributions of a Resilience Framework”, *The Annual Review of Environment and Resources,* 2007, Vol.32, pp.395-419.

いる[11]。ニュージーランド政府は2019年に世界で初めて、国民のウェルビーイングを体系立てて勘案し予算を組むウェルビーイング予算の編成を開始した。また、スコットランド政府は、政府の中期計画である国家成果枠組み（NPF）を2018年に大幅に拡充し、多くの主観的ウェルビーイング関連指標を同枠組みに盛り込んだ。

日本でもウェルビーイングを政策目標にとり入れる動きが2020年代に入って、加速している。

2020年から開始されている国のスーパーシティ・デジタル田園都市構想において、ウェルビーイングと持続可能な環境・社会・経済を実現するまちづくりの構想が打ち出された。日本政府は毎年度の予算編成の大綱である、いわゆる骨太の方針で2021年から、ウェルビーイングを各省庁の計画の成果指標にとり入れると決めた。さらに2021年に閣議決定された科学技術基本計画は、一人ひとりの多様な幸せ（ウェルビーイング）が実現できる社会を政策目標に定め、子供・若者育成支援推進法にもとづく子供・若者育成支援推進大綱は、個人と社会全体のウェルビーイングの実現を政策目標に置いた。同年７月にはウェルビーイングに関する関係府省庁連絡会議が政府に設置されている。

さらに、昨年６月に閣議決定された、教育基本法の規定に基づく第４期教育振興基本計画では、日本社会に根差したウェルビーイングの実現が、大きな政策目標として掲げられている。同計画は、地域コミュニティを基盤とした個人と社会のウェルビーイングを、社会教育を通じて実現することが重要と指摘している。日本社会に根ざしたウェルビーイングの実現は、地方自治体策定の教育振興基本計画及び教育大綱に順次反映され、文部科学省の中央教育審議会での諮問及び答申を経て、2030年度から実施される次期学習指導要領に反映されると予想される。2030年頃から、地域の小中高校でウェルビーイング教育が本格的に展開されることになろう。

## ４　社会のウェルビーイングが希求される理由

では、いまなぜ、これほどまでに社会のウェルビーイングが希求されるのだろうか。

答えの鍵は、未来予測が不能な社会にわれわれが生きていることにある。

都市づくりを取り囲む社会の状況とその未来予想は、刻々と変化している。特に足元の変化は劇的で、いわゆるVUCAと呼ばれる、変動し不確実で複雑かつ曖昧な時代が到来している。社会のグローバル化やデジタルトランスフォーメーション（DX）が進み、Chat GPTに代表される人工知能（AI）が急速な発達を遂げている。AIの学習能力が人間のそれを追い越し、いまある仕事の半分がAIにとって代られる時期が数年後に来るとも言われている。そのとき人間の手には、定型的な過去のパターンでできる仕事は残らず、デザインし、創造し、癒す仕事のみが残ると予測されている[12]。

その予測不能な未来社会を見据えたとき、われわれはどのような力を身につければ、人生百年時代の人生を生き抜けるのだろうか。経済産業省が2022年に公表した未来人材ビジョンによれば、2050年に仕事で最も求められるスキルは、自分なりの問いを立て、未来を予測し、イノベーションを起こす力である。問いを社会に向かって立て、その問いをテーマとして来るべき未来を予測し、その予測に従って自分なりの答えを新しいやり方を生み出す。このスキルセットが、VUCAの時代を生き抜く力である。

しかし予測不能な未来を予測することなどできるのだろうか。ヒントはコンピュータ学者のアラン・カーチス・ケイがかつてつぶやいたこの言葉にある。「未来を予測する最善の方法はそれを自ら創り出すことだ。」[13] システム思考とデザイン思考を体現する言葉である。

予測できない未来に向けて、複雑な社会課題を解決し、自らがよりよい社会を創り出していく。複雑

11　松下美帆（2023）「ウェルビーイング指標の政策活用：海外事例と日本への示唆」*CIS Discussion paper series 699,* Center for Intergenerational Studies, Institute of Economic Research, Hitotsubashi University.

12　Frey, C. B., & Osborne, M. A.（2013）. “The Future of Employment: How Susceptible are Jobs to Computerisation?,” *Oxford Martin School Working Paper.*

13　1971 meeting of PARC http://quoteinvestigator.com/2012/09/27/invent-the-future/Source: https://quotepark.com/quotes/1893243-alan-kay-the-best-way-to-predict-the-future-is-to-invent-it/

に絡み合った社会課題を、からまった糸をほどくように解いていくのがシステム思考だ。未来の自動車を設計するのと同様の手法で、未来を自己実現すべくデザインするのがデザイン思考だ。この二つの思考が、ソーシャルシステムデザインといわれる学問分野の根幹をなしている。

では、生涯にわたって社会を自ら創るべく、学びなおしを続けていくひとたちの、その原動力は何だろうか。それは生涯をかけて、自分たちの社会に幸せをもたらしたいという願いだろう。社会でハツラツ働き、ウキウキ感じ、ワクワクと活躍したい。そのための場の提供こそが、これからの都市政策のニーズだ。ひとびとがハツラツ働き、ウキウキ感じ、ワクワクと活躍するための、ウェルビーイングな都市を社会システムとしてデザインする政策が希求されているのである。

## 5　まちづくり政策の転回の背景

これまでの地方自治体のまちづくりや地域政策の多くは、地域での物質的な経済成長を志向したインフラ建設中心のものであったと言えよう。しかし、地域への産業誘致に基づく経済成長路線は、地域住民の地域及び行政に対する満足度を上げなかった。このことは、経済学者リチャード・イースタリンらがかつて、所得と幸福度はほとんど相関しないという事実を幸福のパラドックスと呼んだものによく似ている。

世界的比較でみても、最新の世界幸福度調査ランキングの上位をフィンランドはじめ北欧諸国が占める一方、日本は2023年に47位と、その経済水準に比べて国民のウェルビーイング度は伸びしろが大きいのが実態である。

しかし地方自治体によるウェルビーイング志向の地域政策の追求は、最近の流行現象では決してない。むしろ、ここ50年間にわたる日本のまちづくり及び地域活性化政策の系譜と変遷を踏まえた、地域への長期的な社会インパクトを踏まえた政策シフトである。

地域の経済成長一辺倒による地域政策立案の時代は、前世紀のうちに終焉していた。さらに2010年代も半ばになると「消滅可能自治体」[14]という言葉が聞かれるようになる。都市のあちこちで、孤独死と背中合わせの「無縁社会」[15]が到来している。この社会情勢に対応して、外から何かを誘致して地域の経済成長を図るというよりは、衰退する地域コミュニティの力を回復することに、多くの政策努力が注がれるようになった。地域住民の多くは、過疎と少子高齢化でぶつぶつと切れそうになっている、地域でのつながりの強化を求めるようになっている。

多くの学術研究が、住民相互のつながりの増大がウェルビーイングの向上と相関することを示している[16]。筆者らの研究でも、雇用と環境配慮の地域政策とともに、地域活動と地域愛着の高さが地域のウェルビーイングと強い相関を持つことが明らかになっている[17]。そして地域では、安全に一人でまちを歩ける、夜怖い目に遭わないなどの安心安全要因がウェルビーイングに相関することが知られている[18]。さらに、自然との頻繁な触れあいはウェルビーイングと相関するという研究結果もあり[19]、ウェルビーイング向上を意図した社会環境政策が数多くの都市で企画立案されるようになっている。

産業振興政策としても、働く住民のウェルビーイング向上は魅力ある地域づくりのための急務の政策課題だ。

ウェルビーイングに関する最近の研究成果が、そ

14　増田寛也（2014）『地方消滅：東京一極集中が招く人口急減』中公新書

15　橘木俊詔（2010）『無縁社会の正体：血縁・地縁・社縁はいかに崩壊したか』PHP研究所

16　例えば、岡壇（2013）『生き心地の良い町：この自殺率の低さには理由がある』講談社

17　高尾真紀子，保井俊之，山崎清，前野隆司（2018）.「地域政策と幸福度の因果関係モデルの構築：地域政策の評価への幸福度指標の活用可能性」『地域活性研究』Vol.9, pp.55-64.

18　Boarini, R., Comola, M., Smith, C., Manchin, R., de Keulenear, F.（2013）. What Makes for a Better Life ?: the determinants of subjective well-beings in OECD Countries --- evidence from the Gallup World Poll, *OECD Statistics Working Papers* 2012/03, http://dx.doi.org/10.1787/ 5ｋ 9ｂ 9ltjm937-en, Paris: OECD Publishing.

19　例えば、White, M.P, Pahl, S., Wheeler, B.W., Depledge, M.H., Fleming, L.E..（2017）. “Natural environments and subjective wellbeing: Different types of exposure are associated with different aspects of wellbeing”, Health ＆ Place, 45（2017）, 77-84.

の意義を説明している。例えば、幸せな社員の創造性はそうでない社員の３倍、生産性は31％高い[20]。幸せなひとはそうでないひとに比べて、７年間から10年間長生きする[21]。従業員のウェルビーイングと勤務する会社の企業利益及び総資産利益率（ROA）は正の相関を示す[22]。

地域の産業振興政策の鍵を握るのが中小企業の動向である。総務省統計局の2016年経済センサス活動報告によれば、日本の中小企業は日本の全企業数の99.7％、従業員数の68.8％及び付加価値産出額の52.9％を占める。地域の働く住民のウェルビーイング向上は、地域の中小企業のウェルビーイング経営の成否にかかっていると言っても過言ではない。筆者と商工中金の研究チームによる研究結果によれば、日本の中小企業の80社の従業員二千名超を対象とする調査で、新型コロナ感染症拡大前の時期ではあるが、売上高の二年平均と従業員の主観的ウェルビーイングの数値は、国際的な幸福度尺度のいずれとも強い相関を示すことが明らかになっている[23]。

個人と社会のウェルビーイング実現は、マクロレベルでの地域の社会経済政策にとっても、重要な政策アジェンダになっている。

## ６　ウェルビーイング向上の手掛かり

個人と社会のウェルビーイング向上が都市政策の重要な課題だとすれば、その向上の手掛かりとなるものは何だろうか。

ひとつはポジティブ心理学の大家で前出のセリグマン教授が提唱する、ウェルビーイングへの五つの鍵である。それは五つの鍵の頭文字をとって、PERMAと呼ばれる。すなわちポジティブ感情（P）、ワーク・エンゲージメント（E）、ポジティブな人間関係（R）、生きる意義や目的（M）、及び自己実現（A）である[24]。

また慶應大学大学院の前野隆司教授らは日本人1,500人を対象とする実証研究により、日本人のウェルビーイングへの鍵が、自己実現と成長（「やってみよう」因子）、つながりと感謝（「ありがとう」因子）、前向きと楽観（「なんとかなる」因子）及び独立とマイペース（「あなたらしく」因子）の四因子から成ることを明らかにしている[25]。

さらに筆者らは、日本の就労者五千人を対象に行った職場における幸せ及び不幸せに関する実証研究[26]をとりまとめ、職場における幸せ及び不幸せのそれぞれ７つの因子を明らかにしている。働く幸せの７因子は、自己成長、リフレッシュ、チームワーク、他者承認、他者貢献、自己裁量及び役割認識である。また働く不幸せの７因子は、自己抑圧、理不尽、協働不全、不快空間、評価不満、疎外感及びオーバーワークである。

これらPERMAや前野の幸せ四因子などに表現される心的状態を地域住民に実現していくまちづくりは、ウェルビーイングな都市創造につながっていくだろう。

さらに、住民間の人的なつながりの強化も、ウェルビーイング向上の大きな手掛かりとなる。イェール大学のニコラス・クリスタキス教授らの研究チーム[27]は、米国東海岸ボストン近郊の小さな村の長年にわたる住民のつながりと幸福度に関するパネル

20　Lyubormisky, S., King, L., Diener, E.,（2005）. “The Benefits of Frequent Positive Effect: Does Happiness Lead to Success ?”, *Psychological Bulletin,* 2005, Vol.131, No.6, pp.803-855.

21　Diener E., and Chan, M.Y.（2011）‘Happy people live longer: Subjective well-being contributes to health and longevity’, *Applied Psychology: Health and Wellbeing*, March 2011, Vol.3 Issue 1, pp.1-43.

22　De Neve, J-E., Kaats, M., Ward, G.（2023）. “Workplace Wellbeing and Firm Performance”, University of Oxford Wellbeing Research Centre Working Paper 2304, doi.org/10.5287/ora-bpkbjayvk

23　Yasui, T., Yamakawa, T., Kinugawa, Y., Kakinuma, Y., Arao, Y.（2021）. “More positive correlations inferred between high performer corporations and collective subjective well-being of their employees in the pandemic era: grounded and quantitative research for Japanese SMEs and their employees”, *International Positive Psychology Association 7th IPPA World Congress 2021,* Virtual Meeting, July 15-17, 2021, Gallary Presentation

24　Seligman, M.E.P.（2011）*Flourish: A Visionary New Understanding of Happiness and Well-Being*, New York: Free Press

25　前野隆司（2013）『幸せのメカニズム：実践・幸福学入門』講談社現代新書

26　井上亮太郎，金本麻里，保井俊之，前野隆司（2022）「職業生活における主観的幸福感因子尺度／主観的不幸感因子尺度の開発」『エモーション・スタディーズ』第８巻第１号，pp. 91 ― 104（2022）, doi: 10.20797/ems.8.1_91

27　Christakis, N.A. and Fowler, J.H.（2009）. *Connected: The Surprising Power of Our Social Networks and How They Shape Our Lives: How Your Friends’ Friends Affect Everything You Feel, Think, and Do*, New York: Back Bay Books.

調査を通じて、人間関係のネットワークでつながりの多い住民ほど高い幸福度を示すことを明らかにした。他方、幸せではない住民は人間関係のつながりが少なく、孤立傾向が高かった。まさに幸せとはつながりであり、地域のつながりを強化していくことはウェルビーイング向上の大きな推進力となる。そして、最近の研究では自然への頻繁なふれあいとウェルビーイングが相関することが明らかになっている[28]。ウェルビーイングの向上のためには、住民同士のつながりのみならず、自然とのつながりも重要である。

## 7　日本社会に根ざしたウェルビーイング追究

都市創造は地域や文化によって、その特長を異にする。では日本の都市政策としてウェルビーイング向上を政策目標に置くとき、どこに特長を置くのが良いだろうか。

第３章で述べた第４期教育振興基本計画では、日本社会に根差したウェルビーイングの実現が謳われていることは既に述べた。

同計画は日本社会に根ざしたウェルビーイングの実現のためのキーワードとして、幸福感、学校や地域でのつながり、利他性、協働性、多様性への理解、サポートを受けられる環境、社会貢献意識、自己肯定感、自己実現、心身の健康、安全・安心な環境、獲得的幸福と協調的幸福のバランスなどを挙げている。自己を肯定でき、未来を自分ごととして決定するマインドセットを持ち、ひととつながって協働し、生涯にわたり学び続ける力を育てる。それを実現する住民のための政策プラットフォームの拡充が、ウェルビーイング追究の都市政策として急務だ。

これらのキーワードのうち、最後の二つの幸福のバランスは、グローバル化の世の中にあって特に大事だ。文化・地域が違うことでウェルビーイングの価値観も違う。獲得的幸福感とは、一般的に欧米的幸福感と理解され、ウェルビーイングの志向は例えばよい成績をとるなど、個人達成志向で、主な幸福は個人的な成功などである。

他方で協調的幸福感とは、一般的にアジア的・日本的幸福感と理解され、ウェルビーイングの志向は例えばまわりの人たちと仲が良いなど、関係志向で、主な幸福は対人関係の調和などである[29]。

この二つの幸福感のバランスを体現したまちづくり政策の提案と実践こそが、これからの日本の都市政策の特長となろう。そのためには、例えば大学、公民館や教育 NPO などが提供する地域をつなぐ体験的な学びや生涯にわたる学びなおしの拠点提供、まちづくりによる関係志向の研究機能などは重要である。

## 8　地方自治体のウェルビーイング戦略

以上のようなウェルビーイング向上の地域政策の展開を受け、個々の地方自治体レベルでの動きも盛んだ。多くの自治体がウェルビーイングを政策目標に掲げるべく実践を進めている。47 都道府県のうち 38％が、ウェルビーイングを政策目標に盛り込むべく何らかの関与を行っている[30]。

例えば富山県は、2021 年８月に成長戦略ビジョン『幸せ人口 1000 万～ウェルビーイング先進地域、富山～』を公表し、成長戦略の六つの柱の筆頭に、真の幸せ（ウェルビーイング）戦略として、人を集めて出入りを活性化し、もっと幸せな富山を目指すことを掲げている。また福岡市は、暮らしの満足度の向上と持続可能な環境・社会・経済の実現を目指し、全国で初めて、勤労者のウェルビーイング向上と SDGs の達成に向けて取り組む事業者を市役所に登録する制度を、2022 年４月に開始した。この制度は、福岡市 Well-being & SDGs 登録制度と呼ばれ、福岡の勤労者の幸福度向上を直接目指す政策である。さらに横浜市は、2022 年 12 月に策定した新しい中期計画で、目指す都市像に関する三本柱のひとつとして、暮らしやすく誰もが Well-being を実現できるまちを掲げている。

28　例えば、松村 治（2014）「自然とのふれあいが多面的な主観的 well-being に与える影響について：地域社会に対するポシティブな認知を含めて」『健康心理学研究』Vol.27, No.2, 113-123

29　内田由紀子（2020）『これからの幸福について：文化的幸福観のすすめ』新曜社

30　東野瑠華，宮田裕章，石川善樹，高野翔，立森久照，村上（内堀）愛恵，金森由晃（2023）「都道府県におけるウェルビーイング政策の現状と今後の課題」東京財団 2023 年 10 月 16 日，R-2023-059.

このような自治体のウェルビーイング政策のニーズを背景に、自治体が幸福度指標などウェルビーイング指標を作成する例も2010年代に入って増加している。2010年の新潟市、2011年の京都府と札幌市を皮切りに、2022年の富山県まで24を数え、さらに増加している。また自治体が共同で、幸福度指標の作成に取り組む例も出てきている。例えば、東京都の荒川区役所のシンクタンクが事務局となり、「住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合」が2013年に発足し、百近くの基礎自治体が加盟している。

この流れを加速したのが、内閣官房、デジタル庁及び内閣府地方創生推進室が連携して2020年から進めている、国のスーパーシティ・デジタル田園都市構想である。デジタル田園都市国家構想は、ウェルビーイングと持続可能な環境・社会・経済をDXにより実現していくまちづくりの構想である。そのまちに住む地域住民が構想づくりに参画し、住民目線で2030年頃に実現される未来社会を先行実現することを目指している。2021年には31の自治体からスーパーシティ型国家戦略特区の提案がなされた。その提案の中には、例えば鎌倉市のように、「世界一Well-beingが高いまちKamakuraの実現」をスーパーシティ構想として掲げている自治体もある。

なおデジタル庁は本構想を進めるに当たり、（一社）スマートシティ・インスティテュート（SCI）とともに、市民の幸福感を高めるまちづくりの指標（LWC指標）を策定し、自治体が自由に活用できる指針の整備を進めている。

この進め方は、これまでのまちづくりはインフラなどハード面の整備に偏りがちで、街全体が目指す価値観や目的などに十分に整合されていなかったという反省に立っている。この指標の活用により、地域のウェルビーイングの向上の検討に当たり、まちづくりの価値観や目的をまちづくりステークホルダーがすり合わせ、お互いに連携を図ることが意図されている。

LWC指標は、①筆者らが開発に関与した地域生活のウェルビーイング指標（10因子）、②協調的幸福指標（７因子）、③ActiveQoL指標（10因子）、④センシュアス・シティ＋寛容性指標（７因子）、及び⑤暮らしやすさ指標（22因子）の、計56因子で構成されている。これら因子の多くが市民生活における主観的ウェルビーイングに関するもので、従来のようなハードのインフラ中心の整備指標とは大いに趣を異にしている。さらにLWC指標は自治体間の得点の優劣を比較するのではなく、むしろそれぞれの自治体がどの因子が最も市民のウェルビーイングを向上させるのか、対話を通じたストーリー作りとモニタリングを進めるツールとしてデザインされている。

SCIはこれまでのLWC指標での取組みとそこから得られた経験をもとに、LWC指標のいわば縮約版となる地域幸福度指標を2023年に提唱している[31]。同指標は、地域の幸福度・生活満足度を問う４問に加え、①生活環境（16カテゴリー・27問）、②地域の人間関係（２カテゴリー・10問）及び③自分らしい生き方（６カテゴリー・９問）の３因子群、24カテゴリーの、計50問から構成されている。そして24のカテゴリー毎に、主観指標はアンケート設問、客観指標は主要評価指標（KPI）を設定し、ともにデータを偏差値化する分析手法をとっている。

ここで留意したいのは、デジタル田園都市国家構想において、地域住民のウェルビーイング向上の実現に最も寄与するステージは、このまちのウェルビーイングの向上はどのようなストーリーになるかという可視化と対話のプロセスだということである。そして地域幸福度指標の活用に当たり強調されているのは、市民の幸福感を高める因子の俯瞰と探索、さらに市民の幸福感向上をシナリオとして可視化し、その高め方を話し合う対話を住民と行い、施策の決定とモニタリングを行うという、地域のウェルビーイングに関する対話のサイクルである。

## ９　ウェルビーイングで選ばれる都市になるために

コロナ禍を契機に、地方移住、ワーケーション及び多地域居住に脚光が当たるようになり、自治体の移住者の誘致合戦も過熱している。

31 （一社）スマートシティ・インスティテュート（2023）『地域幸福度（Well-Being）指標 利活用ガイドブック』, https://www.sci-japan.or.jp, 最終閲覧 2024年1月11日

筆者らがパーソル総研と行った共同研究[32]によると、多地域居住志望者の居住地選択は、そのまちで体験できるウェルビーイングと相関する。ウェルビーイングな都市政策は今や、関係人口増や人口流出防止などの政策のかなめになった観がある。この流れは今後ますます大きくなっていくだろう。

そしてウェルビーイングで選ばれる都市になるためには、都市政策の企画立案者自身がウェルビーイングであることが大事である。

「自利利他円満」[33]という言葉がある。仏教の言葉であるが、この利という言葉は幸せという意味と筆者は解釈している。この言葉は自らの幸せがあってこそ、ひとさまの幸せを実現でき、さらにひとさまが幸せになれば、自分も幸せになるというウェルビーイングの社会循環を描いた言葉と感じている。まずは都市政策関係者がウェルビーイングファーストでありますように、そしてそのことが、住民がウェルビーイングで居住先や移住先の都市を決める鍵となることを願っている。

32　株式会社パーソル総合研究所（2023）「就業者の多拠点居住生活に関する定量調査」https://rc.persol-group.co.jp/thinktank/data/multi-regional-life.html，最終閲覧 2024 年 1 月 11 日

33 「浄土和讃」『浄土真宗聖典 註釈版 第二版』（2004）本願寺出版，p.562